

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4875763号
(P4875763)

(45) 発行日 平成24年2月15日 (2012. 2. 15)

(24) 登録日 平成23年12月2日 (2011. 12. 2)

(51) Int. Cl.	F 1
E O 6 B 1/70 (2006. 01)	E O 6 B 1/70 Z
E O 6 B 7/26 (2006. 01)	E O 6 B 7/26

請求項の数 1 (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2010-132171 (P2010-132171)	(73) 特許権者	000175560
(22) 出願日	平成22年6月9日 (2010. 6. 9)		三協立山アルミ株式会社
(62) 分割の表示	特願2009-132630 (P2009-132630)		富山県高岡市早川 7 〇番地
原出願日	平成19年11月15日 (2007. 11. 15)	(74) 代理人	100136331
(65) 公開番号	特開2010-222971 (P2010-222971A)		弁理士 小林 陽一
(43) 公開日	平成22年10月7日 (2010. 10. 7)	(72) 発明者	竹林 裕之
審査請求日	平成22年6月10日 (2010. 6. 10)		富山県高岡市早川 7 〇番地 三協立山アルミ株式会社内
		審査官	佐藤 美紗子
		(56) 参考文献	特開 2 〇 〇 6 - 3 2 8 9 4 9 (J P , A)
			実開昭 6 1 - 5 6 4 8 9 (J P , U)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 サッシ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下枠と、下枠下面に取付けた水切りとを備え、下枠は、下面より下方に垂下する躯体固定片と、躯体固定片から室外側に離間した位置の下面に設けたタッピングホールと、下面の室外側端部に設けた被係止部とを有し、水切りは、室内側端部に設けた室内側係止片と、下枠よりも室外側まで張出す水切り部と、水切り部の上面に突設した室外側係止片とを有し、室内側係止片を下枠のタッピングホール内に下方より係止し、室外側を持ち上げるように回動して室外側係止片を下枠の被係止部に係止して下枠に取付けていることを特徴とするサッシ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、下枠下面に水切りを取付けたサッシに関する。

【背景技術】

【0002】

従来のサッシにおいては、サッシ枠から流れ落ちる汚れた雨水が外壁にかかり、外壁が汚れるのを防止するため、下枠の下方に水切りを取付けることがある。従来の水切り 9 〇は、図 8 に示すように、下枠 9 1 の下面 9 1 a と間隔を開けた状態で躯体 9 2 の室外側面にビス止めして取付けていたので（例えば、非特許文献 1 参照。）、図中に矢印 9 3 で示すように、強い雨風のときには雨水が水切り 9 〇 上面を伝って躯体 9 2 まで浸入する不都

合があった。

【0003】

また他の従来例として、図9に示すように、下枠91の下面91aに水切り90を取付けたものもある。この水切り90は、中空板状の本体部90aと、本体部の室内側端部より室内側に階段状にのびる当接部90bとを有し、本体部の上面に突設した鉤形の係止片90cを下枠の室外側端部91bに引っ掛け、当接部90b上面と下枠下面91aを両面テープ94で接着して取付けている。この水切り90の取付け方は、当接部90b上面に両面テープ94を予め貼り付けておき、図中に仮想線で示すように水切りを傾けた状態で係止片90cを下枠の室外側端部91bに引っ掛け、その係止部を支点到当接部90bが持ち上げるように水切りを回動し、両面テープ94を下枠下面91aに圧着するものである。この水切りは、下枠との係止部が一箇所しかないため取付状態が非常に不安定であり、そのため両面テープ94が剥がれて下枠下面91aと当接部90b上面との間に隙間が開くおそれが高い。また、当接部90bが下枠の躯体固定片91cまでのびているので、図中の矢印93に示すように、当接部90b上面と下枠下面91aの隙間に雨水が浸入すると、雨水94が躯体92へと浸入するおそれがある。

10

【非特許文献1】三協立山アルミ株式会社発行のカタログ「和風サッシ 秀峰テラス・桜」(カタログNo. STJ0169A Y. 07. 01-090)、第1版、2007年1月、p. 181(水切・水切キャップ納まり参考図)

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

20

【0004】

本発明は以上に述べた実情に鑑み、水切りを下枠に簡単に取付けることができると共に、躯体への雨水の浸入を確実に阻止できるサッシの提供を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記の課題を達成するために請求項1記載の発明によるサッシは、下枠と、下枠下面に取付けた水切りとを備え、下枠は、下面より下方に垂下する躯体固定片と、躯体固定片から室外側に離間した位置の下面に設けたタッピングホールと、下面の室外側端部に設けた被係止部とを有し、水切りは、室内側端部に設けた室内側係止片と、下枠よりも室外側まで張出す水切り部と、水切り部の上面に突設した室外側係止片とを有し、室内側係止片を下枠のタッピングホール内に下方より係止し、室外側を持ち上げるように回動して室外側係止片を下枠の被係止部に係止して下枠に取付けていることを特徴とする。

30

【発明の効果】

【0006】

請求項1記載の発明によるサッシは、水切りを下枠下面に取付ける際、室内側係止片を下枠のタッピングホール内に下方より係止し、室外側を持ち上げるように回動して室外側係止片を下枠の被係止部に係止することで、水切りを下枠下面に簡単に取付けることができる。また、下枠のタッピングホールが躯体固定片から室外側に離間した位置に設けてあり、水切りの室内側端部に設けた室内側係止片と躯体固定片との間に間隔があるため、万が一、下枠下面と水切りの間から雨水が浸入したとしても、躯体まで雨水が浸入することがない。

40

【発明を実施するための最良の形態】

【0007】

以下、本発明の実施の形態を図面に基づいて説明する。図3は、本発明のサッシの第1実施形態(請求項1記載の発明の実施形態)を示す室外側正面図であり、図1は図3のA-A断面図、図2は図3のB-B断面図である。本サッシは、引違い窓の場合の実施形態であって、図3に示すように、上枠20と下枠1と左右の縦枠21a, 21bを枠組みしてサッシ枠13が形成され、サッシ枠13内に内障子22aと外障子22bが上下枠20, 1の長手方向に設けたレールに沿って左右方向に移動自在に収納してある。下枠1の下面には水切り2が取付けてある。

50

【0008】

サッシ枠13は、いわゆる半外付けタイプとなっており、下枠1は、図1に示すように、下面1aの室内側に下方に垂下した躯体固定片3を有し、躯体固定片3を躯体23の室外側面に当接してビス24で固定している。下枠の下面1aの躯体固定片3から室外側に離間した位置には、タッピングホール4が形成してある。タッピングホール4は、下面側がスリット状に開口している。下枠の下面1aの室外側端部には、水切り2の室外側係止片9が係止する被係止部5を有している。被係止部5は、縦片5aと、縦片5aの先端部より室内側に突出した横片5bとで鉤状に形成してある。

【0009】

水切り2は、図1と図4に示すように、室内側端部に下枠1のタッピングホール4に係止する室内側係止片6を有している。室内側係止片6は、縦片6aの先端部室内側に略1/4円弧状に曲がった突片6bを形成したものとなっており、突片6bの室内側面には突部6cが設けてある。室内側係止片6の室外側には、下枠下面1aへの当接部7を有している。当接部7の上面と下枠下面1aとの間には、防水テープ10が設けてある。防水テープ10は、上下面に接着面を有し、下枠下面1aと当接部7上面に接着しており、下枠下面1aと当接部7上面の間から雨水が浸入するのを防止している。当接部7の室外側には、下向きに傾斜して室外側に張出した水切り部8を有している。水切り部8は、図2に示すように、下枠1よりも室外側まで張出すと共に、左右の堅枠21a、21bよりも側方に張出している。また水切り部8は、当接部7より一段低くなっている。水切り部8の上面には、図1と図4に示すように、下枠1の被係止部5に係止する室外側係止片9を有している。室外側係止片9は、縦片9aの先端部室外側にL形の突片9bを形成したものとなっており、突片9bが下枠1の被係止部5の室内側に係止している。突片9bは、先端部の室外側を斜めに面取りしてある。

【0010】

水切り2の左右両端部は、図2と図5に示すように、堅枠21a、21bとの干渉を避けるために、室内側係止片6と当接部7と室外側係止片9とが切り欠かれている。水切り2の左右両端部には、キャップ25がネジ26で取付けてある。図6は、本サッシの下側のコーナー部を示しており、図中に仮想線27で囲ったサッシ枠13コーナー部と水切り2の間の隙間はシール材でシールされる。また図1に示すように、水切り2の下面と外壁28との間の隙間は、シール材29によりシールしている。

【0011】

次に、水切り2の下枠1への取付け方を説明する。水切り2は、図5に示すように、当接部7に長手方向の全長に亘って防水テープ10を予め貼り付けておき、取付け時に防水テープ10上面の剥離紙を剥がして接着面を露出させる。その後、図7に示すように、水切り2を室内側部分が高くなるように傾けた状態で、室内側係止片6を下枠1のタッピングホール4内に下方より差し込んで係止させる。その後、その係止部を支点にして室外側部分を持ち上げるように水切り2を回動させると、室外側係止片9が下枠1の被係止部5の室内側に弾発的に係止し、同時に防水テープ10が下枠下面1aに接着する。

水切り2は、このようにして下枠1に簡単に取付けできる。しかも水切り2は、室内側係止片6と室外側係止片9の二箇所が下枠1のタッピングホール4と被係止部5とに室内外方向に突っ張るように係止しており、尚且つ当接部7が下枠下面1aに防水テープ10を介して接着されるため、安定して下枠1に取付けできる。さらに室内側係止片6は、図4に示すように、突片6bの先端部6dと突部6cと根元部6eの3点でタッピングホール4内を室内外方向に押し広げるように圧接して、タッピングホール4内で突っ張るような形で嵌合し、これにより水切り2の取付けの安定性がより一層高められる。

【0012】

本サッシは、上述のように下枠下面1aに水切り2が取付けてあるため、サッシ枠13から流れ落ちる雨水は水切り2上面を伝って外壁28から室外側に離れたところに落ちるので、外壁28にサッシ枠13からの汚れた雨水がかかるのを防ぎ、外壁28が汚れるのを防止できる。また、図1中に矢印30aで示すように、下枠下面1aと水切り2上面と

10

20

30

40

50

の間から浸入しようとする雨水は、防水テープ 10 により室内側への浸入が阻止される。万が一、防水テープ 10 を超えて雨水が浸入した場合でも、水切り 2 の室内側端部（室内側係止片 6）と下枠 1 の躯体固定片 3 との間に間隔 S を設けてあるので、雨水は図中の矢印 30b で示すように躯体固定片 3 の手前で落下し、躯体 23 まで雨水が浸入することがない。

【0013】

本発明は以上に述べた実施形態に限定されない。水切りの室外側係止片、室内側係止片や、これらが係止する下枠の被係止部の形状は、適宜変更することができる。水切りは、サッシ枠を躯体開口部に取付けた後に下枠に取付けてもよいが、サッシ枠を躯体開口部に取付ける前に下枠に予め取付けておくこともできる。防水テープは、水切りの当接部上面に予め貼り付けておくのではなく、下枠下面に予め貼り付けておくこともできる。窓の種類は、引違い窓やたてすべり出し窓に限らず、あらゆる種類の窓に適用できる。

10

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】図3のA-A断面図である。

【図2】図3のB-B断面図である。

【図3】本発明のサッシの第1実施形態（引違い窓）を示す室外側正面図である。

【図4】第1実施形態のサッシの水切りの取付部分を拡大して示す縦断面図である。

【図5】水切りの斜視図である。

【図6】サッシ下側のコーナー部を室外側から見た斜視図である。

20

【図7】第1実施形態の水切りの下枠への取付時の状態を示す縦断面図である。

【図8】従来の水切りの取付状態を示す縦断面図である。

【図9】従来の水切りの他の例を示す縦断面図である。

【符号の説明】

【0015】

1 下枠

1a 下枠下面

2 水切り

3 躯体固定片

4 タッピングホール

5 被係止部

6 室内側係止片

7 当接部

8 水切り部

9 室外側係止片

10 防水テープ

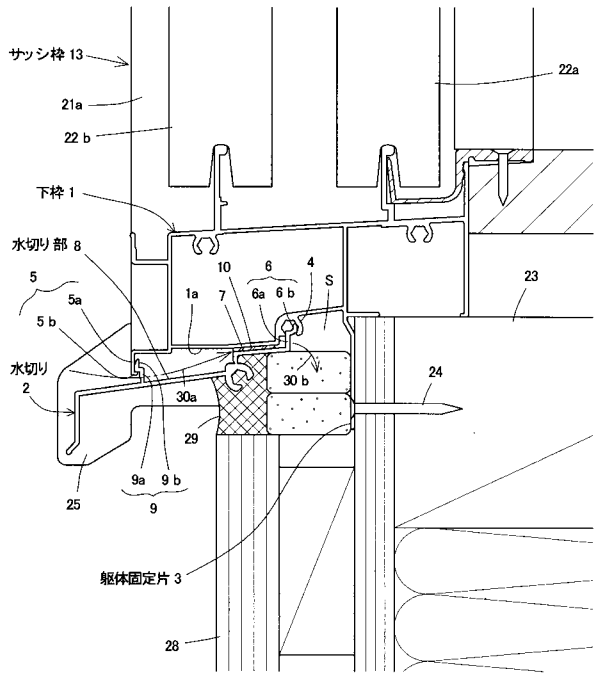
13 サッシ枠

30

【図 1】

室外側

室内側

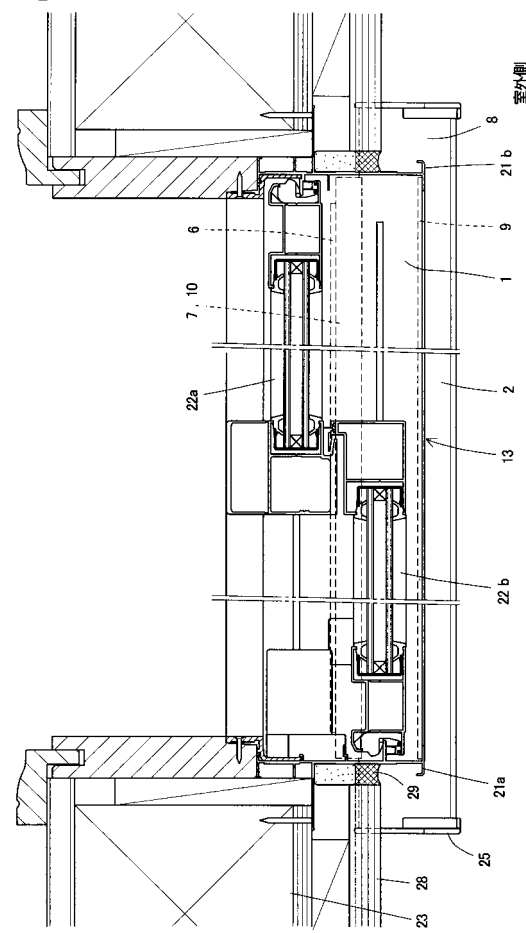


- 4: タッピングホール
- 5: 被係止部
- 6: 室内側係止片
- 7: 当接部
- 9: 室外側係止片
- 10: 防水テープ

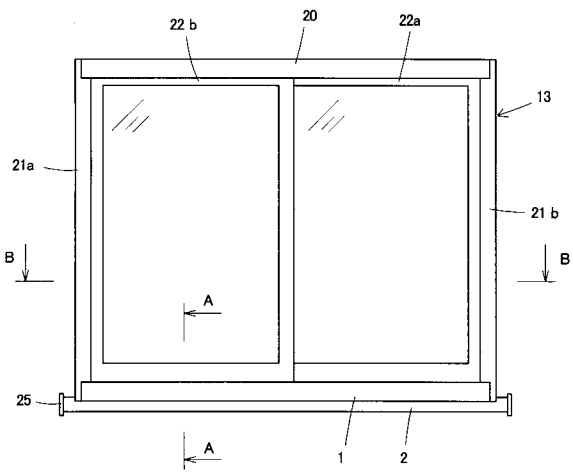
【図 2】

室内側

室外側



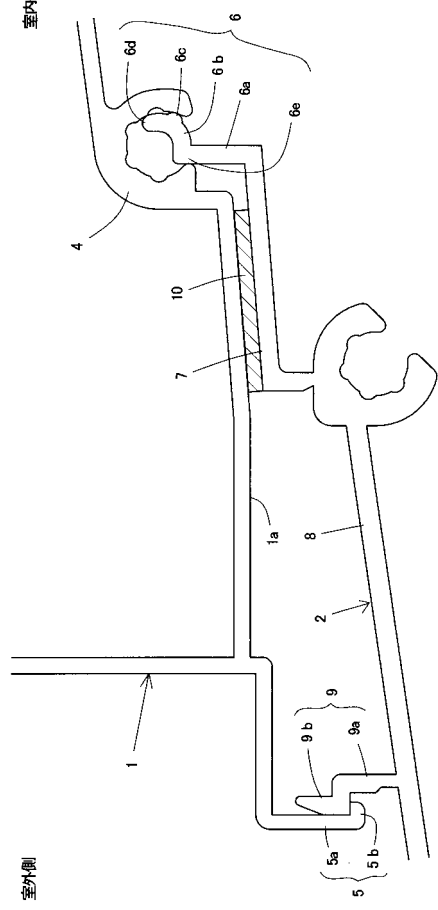
【図 3】



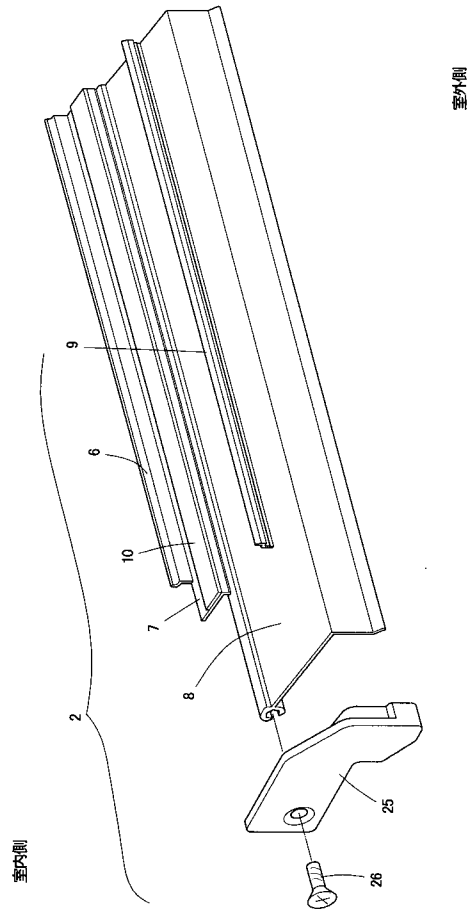
【図 4】

室内側

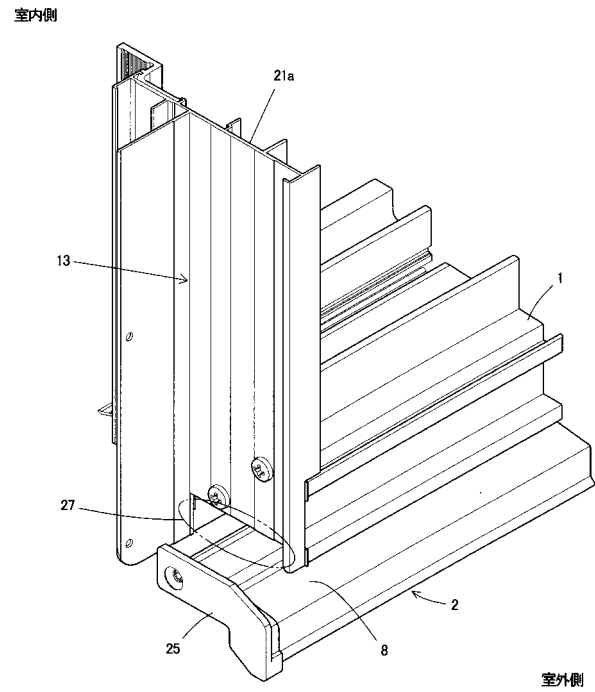
室外側



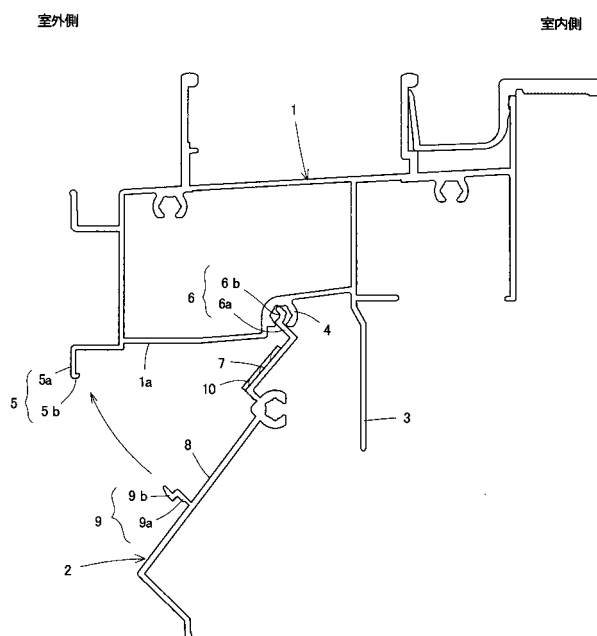
【図 5】



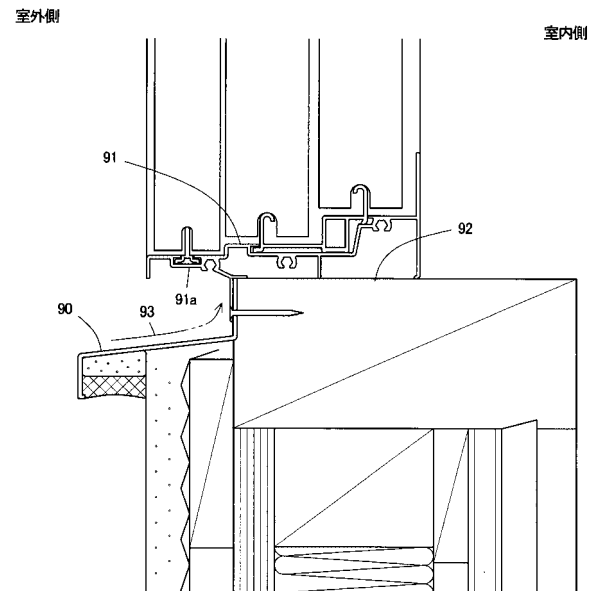
【図 6】



【図 7】



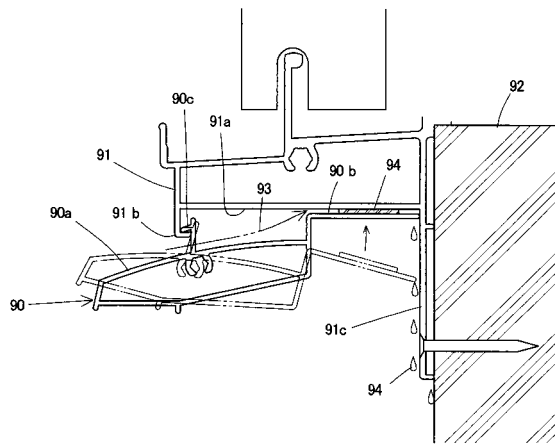
【図 8】



【図 9】

室外側

室内側



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E 0 6 B 7 / 2 6